

各 位

平成 28 年 3 月 25 日

福岡市博物館

平成 28 年 3 月 27 日（日） さくらまつり中の舞鶴公園・三の丸スクエアにて 「3D 日本号」公開イベント開催します。

記

1. 3D 日本号とは…

黒田節に謡われ「呑み取りの鎗」として知られる大身鎗「日本号」。福岡市博物館では、このたび、実物を三次元計測して得たデータを 3D プリンターで出力し、「3D 日本号」を作成しました。これを、三の丸スクエア(中央区城内 2-5)において、「博多湾岸《金印ロード》さくらまつりスペシャル in 三の丸スクエア」の一環としてお披露目します（3 月 26 日～4 月 3 日）。

2. 「博多湾岸《金印ロード》 さくらまつりスペシャル in 三の丸スクエア」とは…

福岡市博物館は、平成 27 年度、地域コミュニティとともに、さまざまな人の力を借り、博多湾岸の歴史遺産の魅力を発信する「博多湾岸《金印ロード》プロジェクト」に取り組みました。これは、国（文化庁）の「平成 27 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の採択事業です。このプロジェクトの成果を市民のみなさんにご紹介するイベントを、「福岡城さくらまつり」の期間中（3 月 26 日～4 月 3 日）、三の丸スクエアにおいて開催します。

内容① 「博多湾岸《金印ロード》プロジェクト」コーナー

★プロジェクトを紹介するパネルを展示

内容② 「さわる《金印ロード》の宝もの—3D 日本号」コーナー

★3 月 26 日～4 月 3 日、3D 日本号は展示されています。

内容③ 1 日限定イベント：さわってみよう「さわる《金印ロード》の宝もの」

3/27 日（日）10:00～12:00

★3D 日本号を、実際に手にとったり形を確かめることが出来るイベントです。

★あわせて、市民団体「キュリオ 3D」が福岡市のユニバーサル都市・福岡活動支援助成を受け作成した「音声ガイド付き福岡市営地下鉄立体地図」もお披露目します。

内容④ 1 日限定イベント：公開研究会「歴史資源×デジタル技術×ユニバーサルデザイン～まちとミュージアムの未来を拓く～」

3/27 日（日）14:00～17:00 三の丸スクエアミーティングルーム

★ユニバーサルデザインに取り組んでいる他都市のミュージアムのスタッフや、デジタル技術関係者とともに、デジタルコンテンツとユニバーサルデザインと文化財の関係について検討する研究会を開催します。どなたでも聴講できます。事前申込み不要。

■会場 福岡城・鴻臚館案内処 三の丸スクエア

開館時間 9:00～17:00 入館無料

〒810-0043 福岡市中央区城内 2-5

■お問い合わせ先

福岡市博物館学芸課：杉山・本田 管理課：岩佐

電話 092-845-5011 FAX 845-5019

〒814-0001 早良区百道浜 3-1-1



《金印ロード》の道しるべ

ボランティアとまちを探访



福岡市観光案内ボランティア

博多湾に代表される美しい自然、個性ある建物がひしめく賑やかな都心、豊かな歴史・文化遺産—このまちの魅力を「おもてなしの心」で発信します。

TEL 092-733-5050
FAX 092-733-5055
Email guide@welcome-fukuoka.or.jp

現場の迫力、遺跡の展示館



福岡市内には13件の国指定史跡があります。遺構や遺跡を見ることができる展示館を併設しているところがあります。

板付遺跡弥生館 TEL 092-592-4936
金隈遺跡甕棺展示館 TEL 092-503-5484
野方遺跡住居跡展示館 TEL 092-812-3710
鴻臚館跡展示館 TEL 092-721-0282
いずれも
開館時間：9:00-17:00(入館は16:30まで)
休館日12/29-1/3 入館料無料

ARでタイムスリップ



AR(拡張現実)技術を活用し、デジタルコンテンツとして、「鴻臚館」と「福岡城」を再現。専用タブレットを用いてガイドツアーとまわる「鴻臚館・福岡城バーチャル時空散歩」は、毎日開催されています(要予約)。

受付：福岡城むかし探訪館
受付時間：9:00～17:00
TEL 092-732-4801 FAX 092-732-4802

スマホ片手に気ままに散策



「福岡歴史ナビ」は、市内の歴史・文化遺産を紹介するスマートフォンのアプリです。レイトン教授、ルーク、レミの3人が、文化財スポットの案内やクイズを通じて旅のお手伝いをします。

【ダウンロード方法】App StoreまたはGooglePlayにて「福岡歴史ナビ」の文字列を検索。検索結果から「福岡歴史ナビ」を選択してダウンロードしてください。

ネットで検索、文化財



福岡市の文化財部が運営するサイト「福岡市の文化財」。市内の文化財のデータベースを公開しています。遺跡、史跡や寺社、さまざまな文化スポットをめぐるおすすめ散策コースを紹介しています。

「福岡市の文化財」サイト
<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp>

アーカイブにアクセス



博物館公式サイトの「アーカイブ」からアクセスできる「企画展示」の解説や、「新修 福岡市史」公式サイトにて閲覧できる「市史だより Fukuoka」は、地域の歴史・文化資源についての情報の宝庫です。

福岡市博物館公式ウェブサイト
<http://www.city.fukuoka.lg.jp>
「新修 福岡市史」公式ウェブサイト
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/shishi/>

Island

志賀島



博多湾岸

金印ロード



海を超えて、時を超えて、このまちで輝く

志賀島の金印

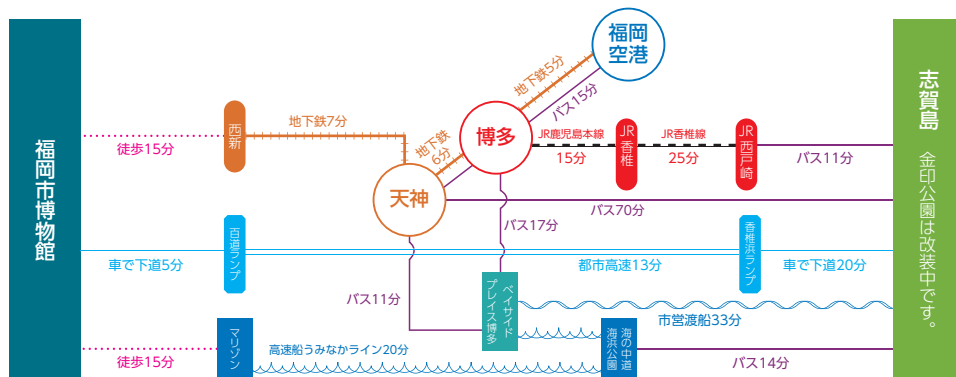
金印発見のしま・志賀島と金印のある福岡市博物館。あいだを結ぶ博多湾岸にひしめく歴史遺産への誘い。

博多湾岸

金印ロード



博多湾岸のエリアには、いにしえより、人・もの・情報が行き交う都市が途切れることなく営まれ続けてきました。博多湾岸《金印ロード》プロジェクトは、その重層的な歴史資源の魅力を、地域コミュニティとともに、さまざまな人の力を借りながら、発信していくプロジェクトです。



平成27年度
地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

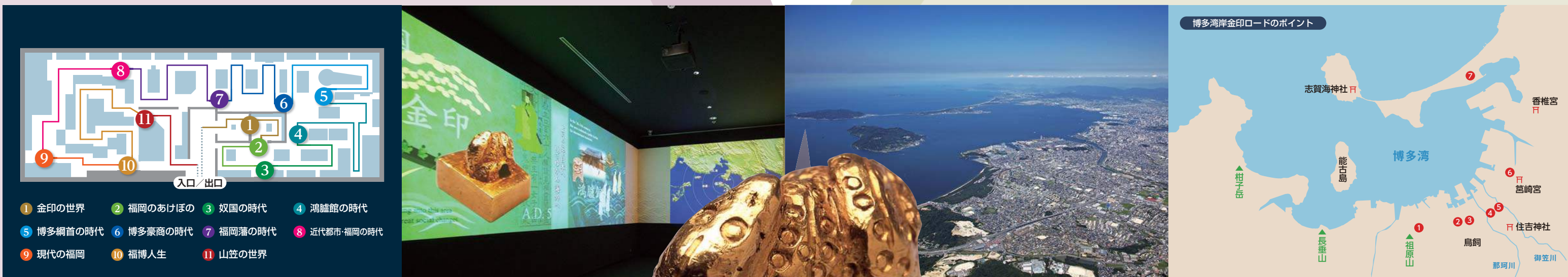


福岡市博物館
Fukuoka City Museum

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目1-1
TEL : 092-845-5011 FAX : 092-845-5019
開館時間：午前9時30分～午後5時30分まで
休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日に休館）

Museum

福岡市博物館



金印のいま 福岡市博物館



元寇防塁

博物館の地下鉄最寄り駅・西新と藤崎からは、史跡「元寇防塁」も訪ねることができます。元寇防塁は、1274年に元の襲撃を受けた鎌倉幕府が、再度の来襲にそなえて博多湾岸に築かせた石の壁です。西南学院大学の体育館裏にある元寇防塁は石積みが確認できます。



福岡城跡

舞鶴公園には江戸時代の「福岡城跡」もあります。福岡城は、福岡藩初代藩主黒田長政が、1601年から7年がかりで築城した城です。舞鶴公園では、「福岡城むかし探訪館」を拠点にして、歴史を楽しむさまざまなガイドツアーがひんぱんに開催されています。



鴻臚館跡

鴻臚館は、平安時代に築かれた外交のための迎賓館です。平安京(京都)、難波(大阪)、そして筑紫(福岡)の3カ所におかれまして。地下鉄赤坂駅から大濠公園駅にかけて広がる舞鶴公園内の「鴻臚館跡」は、唯一、遺構が確認されている史跡です(図版は再現CG)。



博多遺跡群

地下鉄建設、道路の拡幅、ビル建設に伴い行われる博多の発掘は、地域の歴史を次々に明らかにしています。膨大な成果の一部は、博物館などで見ることができます。また、博多駅前から北へのびる大博通りには、博多の歴史がわかるモニュメントが並んでいます(写真は発掘時の様子)。



承天寺・博多のてらまち

博多駅、地下鉄祇園駅付近には古い寺院が並ぶエリアがあります。弘法大師空海の開山と伝わる東長寺、千光祖師 栄西が開いた聖福寺、中国出身の貿易商謝国明の援助により聖一国師 円爾弁円が開いた承天寺…静かな伽藍が古代から中世の博多の国際性を伝えてくれます。



筈崎宮

筈崎宮は、大分の宇佐、京都の清水とともに日本三大八幡宮に数えられる神社です。12世紀頃から海外との交易の拠点として栄えました。9月の放生会では参道一帯に数百軒の露店が立ち並び、多くの人でにぎわっています。最寄り駅はJR 鹿児島本線箱崎駅や地下鉄箱崎宮前駅です。



旧福岡第一空港(雁ノ巣空港)記念碑

雁ノ巣レクリエーションセンターの場所には、かつて、日本最大の空の玄関口がありました。1936年の開港当時は、飛行機の飛行距離が短く、東京や大阪から中国や朝鮮半島などへ飛ぶ路線も、みな、給油のためにここを経由しました。最寄り駅はJR 香椎線雁ノ巣駅です。

志賀島 金印のふるさと



国宝 金印「漢委奴国王」

国宝 金印「かんのわのなのこくおう漢委奴国王」は、江戸時代の天明4年、すなわち西暦1784年、志賀島にて発見されました。中国の歴史書『後漢書』には、建武中元2年、すなわち西暦57年、光武帝が倭の奴国の王に印綬をおくったと書かれており、この金印は、それにあたると考えられています。

金印が発見された志賀島は、博多湾の玄関口にあたり、古来、海を行き来する人々にとって大切なところでした。航海に優れ、漁労や大陸との交易で活躍した古代海人の有力氏族、阿曇氏の発祥の地でもあります。海の神をまつり、古式ゆかしい神事を伝える志賀海神社、航海や島の営みを歌い上げた万葉集の歌碑、平安時代前期の聖観音菩薩立像を

安置する荘厳寺、蒙古襲来にまつわる火焔塚や蒙古塚など、周囲12キロの島は、神話と悠久の歴史を感じさせる宝庫となっています。

金印は、福岡市博物館の常設展示室に、常時、実物が展示されています。博物館は、平成2年、百道海岸を埋め立ててできた新しいまち、シーサイドももちに開館しました。常設展示室では、福岡・博多の歴史とくらしを、11のコーナーにわけて紹介しています。

金印発見の島、志賀島と福岡市博物館は、博多湾の北と南で向き合うように位置しています。この二つの地点の間には、地域の特色ある歴史を物語る史跡や遺跡がひしめいているのです。



- a 志賀海神社
- b 志賀島旅客待合所(市営渡船のりば)
- c 火焔塚
- d 万葉歌碑(志賀島第2号歌碑)

